

- 大学入試共通テスト
- 共通テストチャレンジ 他

温故知新

数学科 井手亮太

嬉しいことがあったとき感謝することはできますよね。では、当たり前な日常、うまくいかないときでも感謝できていますか？教員になって20年これまで様々な目標を達成してきました。しかし、なかなか達成できない仕事上の目標がありました。諦めかけたこともありましたが、10年かけて昨年度末になんとか目標を達成することができました。

目標を達成するには、強い意志、諦めない心はもちろん必要ですが、それだけでは不十分でした。自分を信じ、ただ自分のやるべきこと、できることに集中し、一つ一つのことを丁寧に行い、全力を尽くす。何か言われても心乱すことなく、黙々と前へ進み、毎日の1歩を喜ぶ。毎日を充実した気持ちで過ごす。何より熱心に授業を受けてくれる生徒にはいつも元気もらいました。もし、目標が達成されなくても、その目標のお陰で毎日が充実していたことに感謝しようと思い、できるだけ感謝の気持ちで心を満たすことを意識しました。年相応に動いてくれている体、尽きることなく湧き出る水、空気などの「当たり前」にも感謝です。感謝は気づけば尽きることがありません。そのように一心不乱に行動し、感謝の心で取り組んでいると、不思議と応援団が現れ、自分の知識を超えた叡智を与えてくれました。お陰様で、半世紀程、誰も達成できなかったことを達成することができました。強い思いと行動、そして感謝が必要だったことに気づかされました。なぜ、感謝することが大切なのでしょう？

これまで専門の数学以外に、人間学、心理学、脳科学についても随分、勉強しました。脳には本能に関わる大脳辺縁系という部位があり「主語を理解できない」特徴があります。そのため他者に対して行ったことも全て自分事として受け取ります。例えば、脳は誰かの悪口を言っても自分のことだと勘違いします。何かを大切にすると、自分が大切にされたと勘違いします。そして、「大切にする」という思考が繰り返されることで「大切にされる」現実が創られていくのです。論語の「己の欲せざる所は人に施すことなかれ」は脳科学的にもその通りなのです。現代科学により、先人・賢人の教えを理解し易くなりました。日本にも古くからの素晴らしい教えが、日常の中に隠れています。神社参拝もその一つです。神社参拝の目的は、願いを述べることではなく、今日までの感謝の意を述べること。脳は主語を認識しないため、神様に「ありがとう」と言うと、自分が「ありがとう」と言われたと感じます。感謝するから、感謝されるような事が起こるのです。昔の人はこれらことが感覚的に分かっていたことに驚けます。先人達は人生を豊かに生きる仕掛けを作ってくれています。形式的理解ではなく、本質的理解をすることで見えてきます。

これから3年生は受験本番になりますが、受験の前には、心を落ち着け、ここまで頑張ってきた自分、支えてくれた友人・先生・親など、お世話になった人に感謝することをお勧めします。きっと心が落ち着くと思います。最後に、日常に満ち溢れている当たり前気づき、感謝することができれば、人生はより豊かなものになると思います。私自身できていない時もありますが、これからも日常の当たり前、できれば逆境にも感謝できる人として生きていきたいと思っています。

○大学入学共通テスト 速報

1月18・19日の2日間、大学入学共通テストが実施されました。今年度は国語や数学Ⅱ・Bの時間が伸びたり、情報が新設されたりと様々な変更があった年でしたが、無事に受験することができました。翌20日には自己採点集計結果の各予備校に提出しました。大学入試センターから発表された平均点の中間集計と新宿校生の点数との比較を右の表にまとめました。3年生全体の結果は右の表の通りです。このうち、主に国公立大学志望者である文系6-8科目(1000点満点)の平均点が全国比+131.7点、理系6-8科目(1000点満点)の平均点が全国比+114.2点でした。得点調整の有無は本日24日、平均点の最終発表は2月6日(木)です。

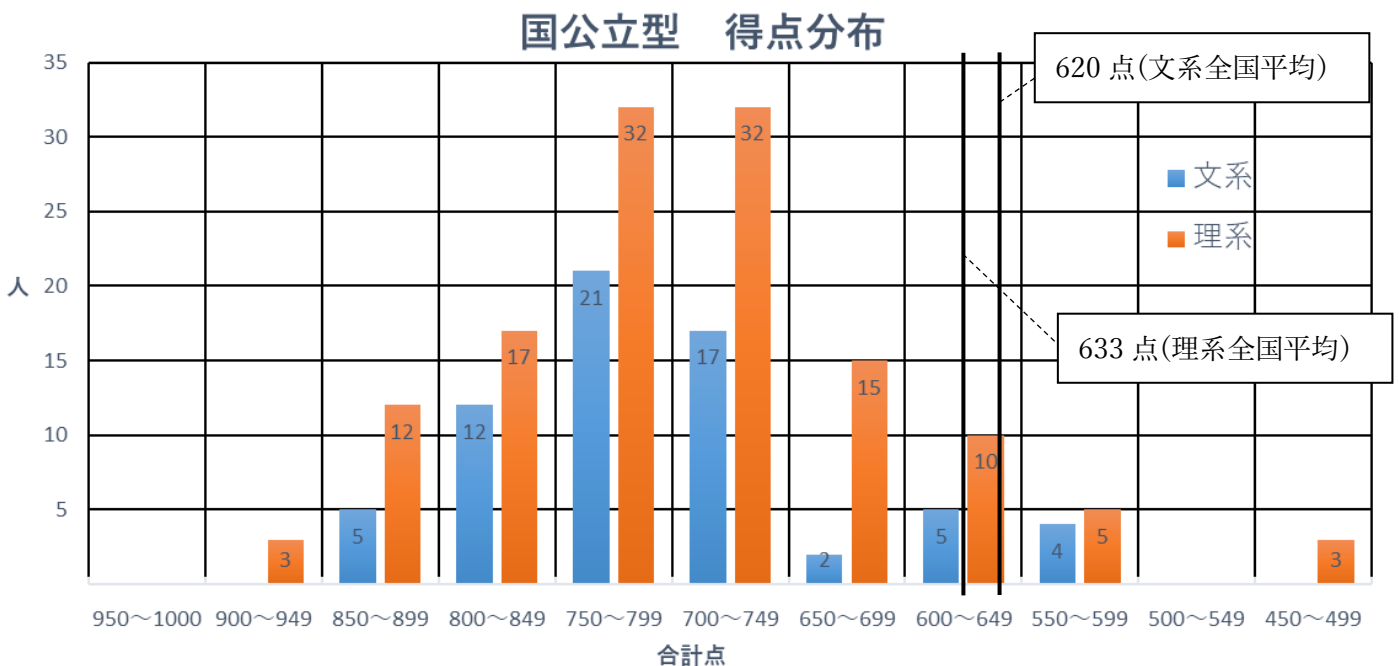
現在、河合塾と駿台・ベネッセ、東進ハイスクールから自己採点の集計に基づく合格目標ラインがネット上で発表されています。これらをもとに、国公立大学2次試験の出願を行ってください。その際に大切なことは、自らの進路を他人に決めてもらうのではなく、家族、学校の先生など様々な人の意見を聞き、最終的には自分で決定しましょう

今年度の国公立大学の出願は1月27日(月)～2月5日(水)です。前期日程だけではなく、後期日程などのお願もこの時に行います。注意しましょう。

現役生はこれからも学力が向上します。私立大学の結果に一喜一憂することなく、2次試験に向けて最後まで諦めず、前向きに学習に取り組みましょう。

教科	科目	新宿高校	全国
国語	国語	156.6	126.13
地歴	歴史総合 世史探究	83.1	68.35
	歴史総合 日史探究	70.0	59.11
	地理総合 地理探究	63.5	59.68
公民	公共倫理	76.8	61.46
	公共政経	77.0	65.69
数学	数学ⅠA	69.7	56.66
	数学ⅡBC	69.7	56.69
英語	リーディング	82.2	59.65
	リスニング	80.9	62.91
理科	物理基礎	34.6	26.04
	化学基礎	33.3	28.63
	生物基礎	37.7	32.74
	地学基礎	39.8	35.66
	物理	75.3	60.93
	化学	55.9	47.69
情報	生物	70.1	54.04
	情報Ⅰ	79.8	73.10
総合	文系 6-8	751.7	620
	理系 6-8	747.2	633

※ 文系6-8と理系6-8の平均点は大学入試センターの発表がないため、駿台ベネッセ・河合塾の予想である



○大学共通分析

国語

今年度より新たに図表やグラフなどの資料から必要な情報を読み取り、文章を正しく加筆修正を行えるかについての表現活動の問題が出題されました。

数学

数学ⅠA、ⅡBともに身近な体験と数学を関連させた問題が出題されました。授業で学んだ知識とそれを日常生活に応用する力が求められていました。

英語

リーディングではあらゆる場面を想定した、様々なジャンル・形式の問題が出題されています。文章の概要や要点を把握し、必要な情報の整理・比較・判断することの多面的な資質・能力が求められていました。リスニングでは図表やワークシートを正しく読み取り、聴きとった情報を重ね合わせて判断する問題が出題されました。

地歴・公民

多くの大問で資料を読み取る問題が出題されました。しかし、資料を見て解ける問題は少なく、資料や会話文などから必要な情報を正確に読み取り、学習した知識と組み合わせながら総合的に判断する力が必要となっていました。

理科

物理・化学・生物ともに探究活動や日常生活と関連した現象の出題がされていた。知識だけで解答できる問題が少なく、図表やグラフ、実験の方法などから複合的に考察しなければ解けない問題が出題されました。

情報

授業で学んだ知識をベースに問題の発見や解決に活用する思考力や判断力を必要とする問題が出題されました。素早く題意を読み取り適切に解答する力が必要となっていました。

どの科目についても、これまで学習してきた知識と初めて見る資料を組み合わせる思考が必須となっています。日々の授業では与えられたものをただ暗記するだけでなく、常になぜ？を考え思考力を鍛えましょう。また、探究活動や理科の実験を中心とする様々な活動でグラフ及び表や図を描く癖をつけ、適切な資料の作り方や読み取り方を身に付けましょう。

○「自由な時間」をどう過ごすか

昨年度発行の「新宿通信 NO.93」と同じ内容です。大変重要なことと思いますので、再掲しました。

1月と2月には都立高校の入学試験があります。試験の当日や直後の採点日は登校禁止期間となり、在校生の皆さんは自宅学習になります。学校から離れる「自由な時間」をどう過ごすか、ぜひ考えてみてください。

2年生は3年0学期が始まっています。つまり、2年生というよりも「3年生の助走期間」に入っているのです。大学入試共通テストまで、あと1年を切りました。この助走期間を、1年後に「あの時に頑張っておいてよかった」と思えるような基礎定着の期間とするのか、それとも「あの時にもっと頑張ればよかった」と後悔する過ごし方をしてしまうのか、自身の行動次第です！

1年生にとっては、これまでの高校生活を振り返り、今後に向けて改めて自分の生活を見直す大切な時期です。1・2年次に借金を作ってしまうと、それを3年次だけで返すことは困難です。特に基礎力が足りていない苦手科目については、今のうちに少しでも借金を返しておきましょう。

「自由な時間」と言えばお気楽な印象がありますが、実は「自由な時間」＝「自分の責任で過ごす時間」なのです。流れていく時間に身を任せて過ごすのではなく、しっかりとしたタイムマネジメントを行っていきましょう。その時間にどのような価値を持たせるか、それを決めていくのは自分自身です。

向き不向きより前向き

小出アキラ (57 回生)
フリーアナウンサー

☆自己紹介

2010 年に札幌テレビ(日本テレビ系列)に入社、地元密着の情報バラエティーや 24 時間テレビで全国中継などを経験。スポーツ分野ではテレビ&ラジオでプロ野球やバスケットボール(Bリーグ)の実況中継を務めて、21 年に独立。現在はフリーアナウンサーとして活動しています。担当番組はフジテレビ ONE『プロ野球ニュース』、ABEMA 格闘技&大相撲、バスケットボールの実況中継など多岐にわたります。その他、イベント MC やナレーションなど“声”を使った仕事を幅広く担当しています。

☆学生時代

自分の新宿高校での思い出を振り返ると、毎日グラウンドで白球を追いかけていた記憶が一番に蘇ります。現在、校舎が立っている場所が当時のグラウンド。野球部ではキャッチャーを務め、誰よりも大きな“声”を響かせていました。だからと言って、まさか自分が将来“声”を職業にすることは思ってもみませんでした。

高校卒業後は一浪して、明治大学に進学。中学時代から興味があったブレイクダンスとアルバイトに明け暮れる日々。すると自然に人生の時計の針は就職へと回っていきます。その時は“人を楽しませるのが好き”という思いからお笑いの世界へ飛び込むつもりでした。しかし、片親で大学まで進学させてくれた母への思いもあり、就職を決意。生まれてからの約 20 年間で徹底的に分析しました。出てきた答えは“喋るのが好き”“人が好き”“楽しませることが好き”といったワードでした。これを満たす職業で、尚且つサラリーマンとは？真っ先にアナウンサーという職業が浮かびました。そこから 3 カ月ほどアナウンススクールに通いましたが、技術力などはほぼ『0』の状態のアナウンス試験に挑みます。何も染まっていないことが奏功したか。札幌テレビに入社し、先輩方の背中を見ながら本格的にアナウンス技術を磨いていきました。

☆入社後

テレビ、ラジオと幅広い分野の番組を担当し、日本ハム時代の栗山監督や大谷翔平選手の取材もさせていただき、貴重な経験となりました。これまで数えきれない現場経験の中で、失敗と反省を繰り返す前に進んできました。私の考えではアナウンサーという仕事に正解はありません。インタビューの際には、もっと良い言葉を引き出せたなあ。中継では、もっと良い表現があったのではないかと。年齢を重ねれば重ねるほど、精度の高い課題が出てくる気がします。時には落ち込むこともあります。そんな時に自分を支えているのが『向き不向きより前向き』という言葉です。若手時代に、ラジオディレクターの先輩から教えてもらいました。こういった言葉は何かと深い意味を付けがちですが、そのままです。今、挑戦していることが“好き・嫌い”、“合う・合わない”に関わらず、とにかく“前向き”にその課題に取り組む。その結果が上手くいかなければ、諦めればいいと腹を括る。まずは逃げずに、挑戦していくことが大きな一歩を刻みます。

現在はフリーアナウンサーとなり、新たな仕事との出会いもあれば、そうでない仕事もあります。それでも常に心に言い聞かせます。皆さんも高校卒業後は、今まで以上に様々な壁にぶつかるかもしれません。その時こそ成長のチャンスです。“向き不向きより前向き”精神で、これからの人生を大いに楽しんでください。

(同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)